

## 第1回協議会の主な意見と対応について

資料1

分類	委員意見	対応	原案
河川下水道対策	新湊川が何回も溢れている。上流の山が崩れると、橋桁に流木が引っかかってそこから溢れるので、山崩れが発生しないように対策して欲しい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>現地確認を行い、明らかに洪水の流下に支障となる土砂・転石を優先して撤去することを記載。</li> <li>河川下水道対策の現状と課題に土砂流出や流木の対策が課題であることを追記。</li> <li>土砂対策(流木対策)に関する国の取り組みを追記。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• P44</li> <li>• P27</li> <li>• P61</li> </ul>
	福田川が氾濫した時も、山陽電鉄の鉄橋に流木が詰まったことが大きな原因だと思う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>県では、「ためる」対策の有効な取り組みと考えており、「意識啓発を行う」ことを記載。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• P67</li> </ul>
流域対策	家庭で雨水を貯めるのはいいアイデアだと思うが、県ではそれを推進していくのか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>県では、「ためる」対策の有効な取り組みと考えており、「意識啓発を行う」ことを記載。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• P67</li> </ul>
	砂防えん堤は堆積土砂を取らないと機能しないと思っていたが、認識が変わった。もっとPRしてほしい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>砂防えん堤は満杯になった後も繰り返し機能を發揮することを本計画で取り上げるとともに、パンフレット「砂防施設のはたらき」を使って積極的に紹介していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• P66</li> </ul>
	土石流は水と土が分離すると土が止まるので、砂防えん堤に貯まった土の中に水がしみこみ土が止まる。砂防えん堤は現況勾配の1/2までは堆砂させられる。土砂がたまることで、山腹の崩壊を抑える効果もある。		
減災対策	防災福祉コミュニティは地震を中心に活動してきたが、水害についても考えていくべき。いかに生活を支えていくか、地域での助け合いが必要である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>既に組織されている防災福祉コミュニティを活用し、浸水対策（減災対策）の充実を記載。</li> <li>アンケート結果も参考に、防災福祉コミュニティの現状と課題を記載。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• P90</li> <li>• P32</li> </ul>
	河川の急激な水位上昇の危険性については、学校教育や婦人会、老人会などでPRしていく必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>都賀川の水難事故をトピックスで取り上げるとともに、増水警報情報（回転灯や電光掲示板による注意喚起）を周知することを記載。</li> <li>降雨時の河川利用者への声かけなど、地域での取組みも進めてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• P20</li> <li>• P77</li> </ul>
	神戸では時間100ミリの雨は降っていないが、いつ来るかわからないので訓練をしていきたい。老人の昼食会で気を失った人が出たが、救急処置されて助かった。訓練のおかげである。	<ul style="list-style-type: none"> <li>本計画は想定を越える降雨に対応することを目標としていることから、様々な対策を記載している。今後、確実に実施されるよう努力していく。</li> </ul>	—
	昼間は人がいないので、小中学生を対象とした訓練が必要である。学校の協力が必要である。最近は、若い人が防災の中心になりつつある。県も、市民の積極的な地域への参加を進めていってほしい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>大黒地区防災福祉コミュニティで中学生や大学生を巻き込んで実施した防災訓練を参考として、今後、本計画に反映していきたい。</li> <li>小学生を対象とした貯留・浸透のジオラマ模型を使った出前講座も活用していただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• P75</li> </ul>
	昭和42年の水害では、川の横方向に向かって浸水が広がっている。川が溢れたら道路を伝って水が流れ。その時どうするかを考えておいて欲しい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>想定を越える降雨の場合、河川の氾濫だけではなく、内水による氾濫が各地区で発生していると考えられ、対応には下水道・道路等も含めたハード対策と「そなえる」対策が必要であり、今後の検討課題としたい。</li> </ul>	